

平成26年 第10回教育委員会会議録

1 日 時

平成26年8月28日(木)

開会 10時00分

閉会 11時15分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、八重澤美知子委員、横山真紀委員、橋正徹委員、中村健一委員、
木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

平島敏彦教育次長、齊田正活教育次長、金戸清外志教育次長兼庶務課長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、竹中功教育次長兼学校指導課長、坂井芳子生涯学習課長、柴田政秋文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長、中村博之教職員課参事兼課長補佐

5 議案件名及び採決の結果

議案第26号	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について	(原案可決)
議案第27号	平成26年第4回石川県議会定例会提出予定案件について	(原案可決)
議案第28号	平成27～30年度使用石川県立特別支援学校小学部検定済教科用図書の採択について	(原案可決)
議案第29号	石川県産業教育審議会委員の委嘱(任命)について	(原案可決)
議案第30号	石川県社会教育委員の委嘱(任命)について	(原案可決)
議案第31号	石川県生涯学習審議会委員の委嘱について	(原案可決)

6 報告案件

報告第1号 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について

報告第2号 平成26年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第27号は、平成26年第4回県議会定例会への提出予定案件のため、議案第28号は、教科書採択に関する案件のため、議案第29号から議案第31号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

議案第26号 教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価について
(金戸教育次長兼庶務課長説明)

資料1ページをご覧ください。

本議案につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条において、教育委員会は、所管する事務の管理及び執行状況について、点検及び評価を行い公表することとされておりますので、その内容をお諮りするものであります。

お手元の別冊報告書(案)で説明させていただきます。

まず、報告書(案)の表紙をめくっていただき、目次をご覧ください。

事務の点検評価につきましては、平成25年度に実施した主な事業を「石川の教育振興基本計画」に掲げた「文化や風土を生かした、世界に通じる人づくり」など8つの柱に沿って記載しております。

また、教育委員会会議及び教育委員の主な活動状況についても記載してあります。

なお、この報告書の作成にあたり、金沢大学の浅野教授と金沢美術工芸大学の桑村教授のお二方から点検評価の結果についてご意見をいただき報告書に反映させております。

それでは、内容につきまして、その概要をかいつまんで説明させていただきます。

報告書の1ページをご覧ください。

1つ目の柱は、「文化や風土を生かした、世界に通じる人づくり」であります。

まず、(1)の「文化や風土を生かした教育の充実」について、1つ目の「ふるさと学習推進事業の実施」につきましては、北陸新幹線金沢開業を控え、おもてなしの心の源であるふるさとへの愛直と誇りを持てるよう、「ふるさとモット学び塾」を開設し、子どもから大人まで広く県民が、ふるさと石川の魅力をより深く学ぶ機会を提供し、延べ3千人余りの受講があったこと、平成26年度は、定員及び開催講座を拡充して実施することなどについて記載しております。

3ページをご覧ください。

(2)の「国際社会に対応できる実践的なコミュニケーション能力の育成」についてであります。

4ページにまいりまして、「高等学校における職業英会話力の育成」につきましては、近年、県内企業の海外進出が進んでいることから、そうした企業にも多く就職している商業・工業高校など専門高校8校の生徒に、英語を用いて臆せずコミュニケーションできる基礎的な能力を身につけさせるため、卒業生など海外赴任経験者の講話を通じて、学ぶ意欲を喚起するとともに、教材や指導法の開発などを行ったこと、平成26年度は、対象を11校

に増やし、一層効果的な教材と指導法の開発を行うことなどについて記載しております。

下段の施策指標の達成状況であります。

「石川の教育振興基本計画」に掲げた「数値目標項目」の達成状況を、以下各施策の柱ごとに記載しております。

なお、平成22年度基準値は、振興基本計画策定時の値となっており、27年度の目標値は、同計画に定める目標値を記載しております。

5ページをご覧ください。

2番目の柱は、「確かな学力をはぐくみ一人一人の個性と創造性を伸ばす教育」であります。まず、(1)の「確かな学力の育成」であります。

6ページにまいりまして、上段の「児童生徒の課題発見力の育成」につきましては、児童生徒が新たな課題を見いだす力、課題発見力の育成に向けて、指導法の工夫改善を図ったことや、推進校11校相互の情報交換、フィンランドから招聘した講師による講演会を開催したこと、今後は、課題発見力の一層の向上に向け、効果的な指導法の開発・実践、ICTの活用等を進める必要があると考えていることなどについて記載しています。

11ページをご覧ください。

下段にある「職業に関する専門教育の充実」については、農業高校では、栽培・加工・販売の一連の流れの実践、商業高校では、企業と連携した商品開発など、それぞれの事業実施校4校において先進的な専門教育活動を通じた職業教育の質の向上を図ったこと、平成26年度は、事業実施校を総合学科、特別支援学校、合わせて12校に拡大し取組内容をさらに充実させ、平成28年度に本県で開催される全国産業教育フェアに向けて、学校間、専門部会間の連携を強化することなどについて記載しております。

16ページをご覧ください。

施策指標の達成状況であります。

平成27年度の目標値に対し、達成率が大きく下回っている2件についてご説明させていただきます。

上から5番目の「週1回以上、全校一斉の読書活動に取り組む学校の割合」につきまして、小中学校では高いものの、高等学校での達成率が16%となっております。

これは全国的にも、同様の傾向となっておりますが、高等学校においても生徒が読書に親しむ態度を育み、生涯に渡る読書習慣を確立することは重要と考えております。

各高校では、全校一斉の読書活動のほかにも推薦図書を紹介や読書会などを実施していますが、今後とも司書教諭や学校図書館司書などを中心に、学校関係者の意識の高揚を図っていく必要があると考えております。

続きまして、下から2番目の「県立全日制高等学校在学中にインターンシップに参加した生徒の割合」につきましては、全ての高校で実施しておりますが、生徒単位では38%となっております。

専門高校など卒業生の多くが就職する学校においては、参加率は高くなっているが、一方で進学校においては、ジョブカフェ石川からの事前指導の実施や医療系志望者を対象に行うインターンシップなど、各校で特色ある取組を実施しておりますが、生徒数全体での参加率そのものは、なかなか伸びないのが実情であります。

規模の大きい学校ほど受け入れ先の確保等が課題となりますが、今後、その実施の仕方

などについて検討が必要と考えております。

17ページをご覧ください。

3番目の柱は、「豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の増進に努める、たくましい人づくり」であります。

18ページにまいりまして、(2)の「いじめ・不登校・暴力行為等への取組の充実」であります。

上段の「いじめを見逃さない学校づくりの推進」につきましては、全公立学校の「いじめ問題対策チーム」を対象に、児童生徒や保護者への具体的な関わりを想定したケーススタディ研修を実施したこと、弁護士、医師、警察官OBなどの専門家を「いじめ対応アドバイザー」として、要請のあった全ての学校に派遣し、必要な助言・指導を行ったこと、今後とも、本年3月に策定された「石川県いじめ防止基本方針」の周知徹底を図り、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めることなどについて記載しております。

21ページをご覧ください。

上段ある「携帯電話等によるネットトラブルの未然防止対策の推進」につきましては、インターネットの有害情報対策として、いしかわ子ども総合条例改正の趣旨や携帯電話等の利用に潜む危険性と安全対策等を記載した啓発リーフレットを全小中高等学校・特別支援学校の保護者に対して配付するとともに、保護者を対象とした啓発講座に講師を派遣したこと、平成26年度は、内容をより充実させた啓発パンフレットを作成することやPTA関係者を対象としたネット問題のリーダー養成講座を開催することなどについて記載しております。

25ページをご覧ください。

4番目の柱は、「時代の変化に対応した、魅力ある学校づくり」であります。

まず、(1)の「教員の資質・能力の向上」についてであります。1つ目の「教員研修制度改革会議の設置」につきましては、教員の世代交代を見据え、石川の教育力向上を目的とした新たな教員研修制度を検討するため「教員研修制度改革会議」を開催し、これまでの議論を踏まえ、本年5月に策定した「いしかわ新教員研修制度」に基づき教員研修の充実を進めることなどについて記載しております。

2つ目の「いしかわ師範塾の開講」につきましては、本県の教員を目指す大学生及び公立学校に勤務する講師を対象とした講座を実施し、模擬授業やロールプレイなどを通じて、より実践的な指導力を身につけた人材の養成に努めること、今年度からは、新たに次代の中核的リーダーとなる教員を育成するための現職教員を対象とした専門性の高い研修を行うことなどについて記載しています。

28ページをご覧ください。

(2)の「教育環境の整備・充実」についてであります。

1つ目の「高等学校等の施設整備の充実」につきましては、平成25年度末の県立学校の耐震化率が91.6%に上昇したこと、今後とも学校施設の耐震化を計画的に進めることや、引き続き教育環境の整備充実を図る必要があることなどについて記載しております。

30ページをご覧ください。

5番目の柱は、「学校、家庭、地域が連携・協力した、社会全体による教育力の向上」であります。

31ページにまいりまして、一つ目の「家庭教育の充実」につきましては、家庭教育への

関心・意識を高めるためのテレビ番組の放映、家庭教育の悩みや問題に対する電話相談や専門家によるカウンセリングを実施したこと、平成26年度は、小学校入学前の子どもを持つ保護者を対象とした親学びの冊子の作成や親学び講座の講師養成など、県内全小学校における親学び講座の開催の支援を行うことなどについて記載しております。

34ページをご覧ください。

6番目の柱は、「学びの気運に満ちた生涯学習社会づくり」であります。

1つ目の「県民大学校の充実」につきましては、多様化する県民の学習ニーズに応えるため、平成25年度は1,000を超える講座を開設し、開校以来の修了生は、延べ14,900人余りに達したこと、生涯学習センターに学習スペースを設け社会教育団体による講座や会議等に利用していただくなど生涯学習社会づくりに努めたこと、今後も、出前講座の実施や講座のインターネット配信など学びの機会を広く提供していきたいと考えていることなどについて記載しております。

36ページをご覧ください。

7番目の柱は、「文化財の保存・活用」であります。

「金沢城石川門の保存修理」につきましては、付属作法太鼓塀の解体修理を実施し、平成18年度から8年に及ぶ金沢城石川門の保存修理を完成させたこと、重要文化財である金沢城石川門を後世に伝えていくため、適切な管理に取り組んでいくことなどについて記載しております。

40ページをご覧ください。

8番目の柱は、「ライフステージに応じたスポーツ活動の充実」であります。

41ページにまいりまして、(2)の「より高いレベルの競技者育成を目指した取組の充実」のうち、「選手強化事業の推進」についてにつきましては、昨年度開催された東京国体に向けた重点強化や競技団体の実施する強化合宿、県外遠征、若手指導者養成等に対する助成を実施した結果、本県を代表する選手が、各種大会で上位入賞するとともに国際大会の日本代表に選出されたこと、今後、2020年の東京オリンピックに向け、若手選手の育成・強化を進めていく必要があると考えていることなどについてを記載しております。

44ページをご覧ください。

「教育委員会会議及び教育委員の主な活動」でございます。

「1 教育委員会会議」につきましては、平成25年度は会議を15回開催し、議案39件、報告事項23件について、委員の皆さまに精力的にご審議やご意見をいただきました。

その下の「2 教育委員の主な活動」につきましては、委員の皆さまには、お忙しい中、県内小中高校に出向いていただき、学校長と意見交換するなど、学校現場の状況把握に努めていただいたり、市町の教育委員と懇談していただくなど年間を通して積極的に活動していただきました。その一覧表でございます。

45ページからは、審議された議案や報告事項等について記載してございます。

最後の48ページにつきましては、教育委員会関係の平成25年度当初予算について記載しております。

以上で説明は終わりますが、今後の事務処理といたしましては、本報告書を県議会へ提出するとともに、ホームページに掲載し公表することとしておりますので、ご審議のほど、よろしく願いいたします。

【質疑】

(金田委員長)

2の「確かな学力をはぐくみ一人一人の個性と創造を伸ばす教育」と3の「豊かな人間性をはぐくむとともに、健康や体力の増進に努める、たくましい人づくり」、項立ては分かれているが、「確かな学力」と「心の教育」こういう2本立てで、石川県が進むと言うことは、非常に大事なことだと思います。

特にいじめや不登校、学力向上も大事だが、それ以上に大事なのが、豊かな人間性をはぐくむこと、ここに重きを置いていると言うことは、とても心強く感じる。

(八重澤委員)

内容ではないのですが、せっかく評価されたのですから、今後これを次のステップとして、例えば、これを今現在学校を管理されている学校長などに配付し「今後は、こういう路線でやっていくのだから」と言う使い方をするのか、今後の取扱いについてどのような行程になるのか教えてください。

(金戸教育次長兼庶務課長)

点検・評価をするということは、当然、26年度以降の事業の執行に反映するということをお前提としています。

各一つ一つの事業について、全て今後の方向性を示していますので、その内容等について、十分に全ての学校の方へ周知していきたいと考えております。

(八重澤委員)

これは教育委員会事務局で手持ちの資料として持っていて、一般には公開しないということなのか、それとも関係するところに全て配って、これに基づいて事業を行っていくのでしょうか。

(木下教育長)

基本的にこれは公表します。議会にも提出して、インターネットでも公開します。

今後、この点検・評価をしっかりと見ていただいてやっていくということになるのですが、これだけで十分に各学校や市町教育委員会で対応可能かと言うと、少し碎いて説明する作業が必要だと思っていますので、それぞれ個々の事案毎に指導する場合、これをきちんと活用していただいてやっていきたいと思っています。

そういう意味で、全体をお見せすると言うこと、また、一つ一つの事業の実施にあたっては、噛み砕いた形で個別指導をしていかないといけないと考えています。

(八重澤委員)

公開することによって、この部分はこんなふうをお願いをしたいという意見を学校現場などから吸い上げるような仕組みというものはあるのでしょうか。

(木下教育長)

基本的に全体の指導と言うことで、市町・学校の方へ教育事務所が訪問するとか、要請によって指導するとか、そのような中で使うと言うことになると思います。

(八重澤委員)

分かりました。ありがとうございます。

(横山委員)

この点検・評価報告書については、各委員の皆さまからも多くの意見があったでしょうが、いろんな部分に具体的な数値を盛り込んでいただいたり配慮が感じられ、分かり易い報告書になっていると思います。

1点伺いたいのですが、31、32ページの部分、31ページの一番下にあります「地域ぐるみで学校運営を支援するボランティア本部の設置支援」について、こちらに関しては、中核市以外の7市町で2千人近くのボランティアが登録されていて、今後の方向性で「枠組みが整備されたことから、平成25年度で事業を終了します。」と記載があります。

ここ近年の現状として、世界的に見ると日本の先生の勤務時間がものすごく長いのに対して、授業時間等生徒と向き合う時間が非常に少ないと言う状況にあるので、ボランティアの方、スクールカウンセラーの方、ソーシャルワーカーの方などのサポートにより、先生方の授業体制であったり学校の仕組みや意識の見直しを進めるような、人の手を借りる、コラボレーションしていくと言うことがとても重要になっていると思います。

こうした中で全国的にいろいろな取り組みがされて、石川県もこのようなボランティアの設置支援を行っていると言うことは、すばらしい試みだと思いますが、25年度で終了すると言うことですが、この後はどのような形でこの事業が派生していくのでしょうか。

(坂井生涯学習課長)

これは、この事業の基となっている国の事業が平成25年度で終了することから、県と市町で話し合い、各市町が独自に必要なに応じて今後も取り組んでいくと決めたことから、県はこの事業から手を引くということで、無くなってしまったのではなく各市町で大変熱心に取り組んでいただいております。

(横山委員)

違う形で継続すると言うことですね。了解いたしました。

(金田委員長)

非常に緻密に検証されています。

新たな事業をビルドしてだけでなく、既存事業をスクラップする勇気も持って、さらに良い事業を考え、是非、26年度、27年度と頑張っていただきたい。

では、この件につきまして、他にご発言はありませんでしょうか。

それでは採決を求めます。

(全委員)
異議なし。

報告第1号 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果について
(竹中教育次長兼学校指導課長説明)

資料15ページをご覧ください。

はじめに、「I 調査の概要」をご覧ください。

1の「調査の目的」から3の「調査実施日」につきましては、記載のとおりです。

なお、今年度の調査につきましては、悉皆調査で行われております。

4の「調査の内容」につきましては、国語、算数・数学の教科に関する調査と、生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査が実施されています。

5の「調査を実施した本県公立学校数・児童生徒数」につきましては、記載のとおりです。

次に、16ページの「II 調査の結果」をご覧ください。

まず、1の「教科に関する調査の結果」についてであります。本県の平均正答率については、例えば、表の中に小学校6年の国語Aにおいて本県74.1%、全国72.9%とありますが、小学校6年、中学校3年の国語、算数・数学のすべてにおいて、本県の平均正答率は全国平均を上回る結果となっております。

次に、17ページをご覧ください。

「2 質問紙調査の結果」について、主な結果を説明いたします。

まず、児童生徒質問紙調査についてですが、学習に対する関心・意欲・態度につきましては、教科の勉強が好きという意欲においては、一部にやや課題が見られる一方、身に付けた知識・技能を活用しようとする態度においては、良好な面が見られております。

例えば、18ページをご覧ください。

(4)の算数・数学で、言葉や式を使って、わけや求め方を説明する問題で、最後まで解答を書こうと努力したという割合は、小6は86.1%で全国より高く、中3は61.8%で全国よりやや高いという結果でした。

また、19ページ以降の「学習習慣等」や「生活習慣等」については、例えば、21ページをご覧ください。

(9)の新聞を読んでいる児童生徒の割合につきましては、小6の32.3%は全国より高く、中3の22.7%は全国と同程度という結果であり、それ以外の項目についても概ね良好な結果でした。

最後に、学校質問紙調査についてです。

22ページをご覧ください。

(1)の児童生徒の様々な考えを引き出し、思考を深める発問や指導をしている学校の割合は、小学校は93.3%と全国と同程度で、中学校は96.7%と全国より高いという結果であり、活用力を育成しようとする教員の意識が良好なものになっていると捉えています。

以上、今年度の全国学力・学習状況調査の結果についてご説明いたしました。

今後につきましては、各学校等の指導の改善・充実に役立つよう県全体の「結果の概要」を早々に取りまとめ、市町教育委員会や各学校に配付するとともに、その後、さらに詳細な分析を加えて課題等を洗い出し、児童生徒一人一人の学力がより一層高まるよう指導支援に努めてまいりたいと考えております。

以上で、説明を終わります。

【質疑】

(中村委員)

今回あえて、順位の発表はないのですが、新聞の方では発表されています。

それを見ますと、昨年までは、秋田、福井、石川の順番であったが、今年は、秋田、福井、富山になっている。やはりこれは僅差とは言え、我々のイメージから見ますと、やはりベスト3には入らなければいけないと危機感を持っていないといけない。

秋田県においては、その後の大学は芳しくないという問題を抱えているが、この僅差の中で安定してトップを維持していると言う努力は、並大抵のものではないと思います。

そういう中で我々としては、ベスト3に入る努力を今後ともお願いをしたい。

新聞を見られた多くの方がそのように思われているのではないかとと思うので、ある意味、危機感を持って対応していただきたい。

(橋正委員)

中村委員の言われたとおり、心情的には新聞等の報道を見ておもしろくないと感じている県民も多いのではないかと思います。私は石川の教育レベルは極めて高いところにあると思っております。

これは、やはり教員の指導力の向上や質の向上への県教委の努力が、しっかりと下支えになっているのだろうと思って、今回の結果を見させていただきました。

この結果は学力の分析をきちんとし、各校の今後の指導にしっかりと活かしていただきたい。

しかし、分析は毎年のことなので、形式化していないか、分析したからそれで終わりということになっていないか、そういうことになっていると今後の伸びは期待できないので、この辺りを今一度、各学校できちんとやっていただきたいと思っております。

また、教員の指導力、指導に問題のある先生の研修についても、今までどおりで良いか、もう少し何かできることはないのか、また、師範塾に多くの講師がいるが、この講師の指導力の向上というものもレベルアップに避けては通れないものだと思いますので、その辺も考える方向がないのかという観点で取り組んでいただけたら、多分、トップに躍り出るのではないのでしょうか。

(八重澤委員)

全国の平均正答率を見ると国語のAは72.9%、子供たちは3/4近くの問題が出来ている。ということは、僅かな差の中に子供たちが密集しているということが当然考えられる訳です。

順位という状況よりも、子供たちは3/4の問題が出来ていると言うこと。確かにリスト化

すると、下位よりも上位が良いというのは心情的には分かりますが、今回の結果には、こういった事情があるということ。

もう一つ、石川の教員が本当に良くやっていると分かったのは、アンケート調査の結果、22ページの学力調査の活用に関することというところでは、

テストは何のためにするのかと言うと今後のためなのです。今までのことを踏まえて次のステップをどう進めるかと言うところで、石川の先生方は、調査結果の活用に非常に意識が高いと言う結果が見えるので、私は、是非これからもこうしたデータを活用して、子供たちの教育に活かしていられるように望みますのでよろしくお願いします。

(横山委員)

私も22ページの部分、指導方法に関するところ、特に中学校の指導について、様々な考えを引き出したり、思考を深めるような発問や指導をしましたかと言う問いに、指導したと答えた割合が、全国91.1%に対して石川は、96.7%と非常に高い数値があり、この辺りはやはり、先生のモチベーションというのが非常に高まっているのだなあと言うふうに感じます。

そして、それを結果につなげていくには、先生が外部の力を借りることが出来る環境、100%一人で出来る先生がすばらしいという評価でなく、いろんなところとのコラボレーションを活用することで、生徒と向き合う時間を増やすという試みがとても必要なのではないかと思えます。

というのは、NHKのスペシャルで会議の時間を10分減らして、10分生徒と向き合おうと言う試みをしている学校を取り上げていまして、数値的に上がって行った不登校が改善されていくというリアルな情報番組がありまして、これを拝見して、生徒に伝える・生徒と向き合う時間、「先生は僕を見ていてくれている」と生徒が感じられることが、きっと学力のモチベーションにもつながると思えますので、この辺りを少しお願いしたいなと思えます。

(金田委員長)

確かに国語Aにおける14位は、今までの順位を考えると少し下がった感じはするのですが、お話を聞きますと非常に小さい刻みの中でのこと、しかし非常に小さい刻みの中に集中しているからこそ、少し緊張を緩めると、あっという間に14番になったり、或いはそれ以下になってしまうという状況ですので、やはり常に、教育委員会も現場の先生方も緊張感を持って、子供たちを向き合ってもらいたいと思っております。

調査というものは、児童生徒の理解度や到達度というものでありますが、お話を聞きますと、さらにそこから、石川県も、全国的にも、学校の先生の指導力を問うところまで来ているなどという思いを持っております。

児童生徒の到達度・理解度だけを見ても駄目、児童生徒の到達度・理解度を見ながら先生方の指導力というものを常にリンクさせながら施策を行っていただきたい。

報告第2号 平成26年度全国高等学校総合体育大会等における本県選手団の成績について

(森山スポーツ健康課長説明)

資料23ページをご覧ください。

最初に、1の「全国高等学校総合体育大会」については、南関東4都県で平成26年7月26日から8月20日までの期間で開催され、本県より29競技に選手が出場しました。

団体では、相撲で金沢市立工業高校が県勢としては7年ぶりの優勝、バドミントン女子で金沢向陽高校が3位、ヨット女子の羽咋工業高校、ソフトボール女子の金沢高校が5位、バレーボール女子の金沢商業高校、サッカー男子の星稜高校がベスト8に入賞しております。

個人では、相撲で、金沢市立工業高校の城山選手が団体との2冠に輝いたほか、ウエイトリフティング男子53kg級クリーン&ジャークとトータルで津幡高校の柳生選手、自転車ケイリンで内灘高校の千田選手が見事に優勝し、陸上男子110mハードルで金沢大学附属高校の梅村選手、ボート男子ダブルスカルで小松明峰高校の宮浦・高倉組が2位、相撲個人で、金沢市立工業高校の西野選手が3位に入賞しております。

その他の入賞につきましては、一覧表のとおりでございます。

個人と団体を併せた全体の入賞数は27で、昨年を上回るとともに、優勝数がここ5年間で最多の5となっております。

全国のレベルは上位で拮抗している種目が多いことから、今後は、長崎での国民体育大会に向け、高校生が接戦を制するための、あと一步のレベルアップやメンタル面の強化に取り組めるよう、県高体連や県体育協会と連携し、指導・激励してまいりたいと考えています。

24ページをご覧ください。

2の「全国高等学校選手権大会」は、本県より5競技に選手58名が出場しました。

団体では、トランポリン男子、女子、ともに星稜高校が優勝いたしました。

個人では、トランポリンの個人男子で星稜高校の堺選手、個人女子で同じく中野選手、男子シンクロナイズドで星稜高校の安藤・宮野組、女子シンクロナイズドで、同じく中野・平野組が優勝いたしました。

その他の入賞につきましては、一覧表のとおりでございます。

3の「全国高等学校定時制通信制体育大会」は、本県から8競技に選手61名が出場し、個人では、卓球男子で金沢泉丘高校通信制の品川選手、柔道男子で金沢中央高校の初鹿野選手がベスト8に入賞しました。

以上、この夏に行われました高校生の全国大会についての報告を終わります。

【質疑】

(金田委員長)

この結果が、上手く国体につながると良いですね。

(森山スポーツ健康課長)

僅かな期間ですので、気持ちを引き締めて行きたいと思います。

(金田委員長)

去年と比べると優秀な成績ですね。

(八重澤委員)

この選手達には、これからもどんどん活躍してもらいたいです。県立高校の選手が少ないというのは、もしかすると私立の方が良いスポーツ環境が整ってるとか、良い指導者がいるとか何か違いがあるのでしょうか。

(森山スポーツ健康課長)

その辺の分析は難しいのですが、部活の顧問から聞きますと、私立の高校に良い選手をとられてしまうと言うようなことは聞いております。

(中村委員)

良いコーチも多いよね。

(金田委員長)

コーチング、コーチの研修というものも、近年取り入れてきていますよね。

(森山スポーツ健康課長)

体育協会の向上委員会でやっております。

(金田委員長)

入賞数を見ますと、だいたい毎年似たようなところに入ってくるんですね。

今年は個人が少し良かったのですかね。

いろいろな壁がありますが、何とか乗り越えて、監督も先生も、生徒諸君も頑張ってもらえるようお願いいたします。

(金田委員長)

以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第27号 平成26年第4回石川県議会定例会提出予定案件について (非公開)

金戸教育次長兼庶務課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第28号 平成27～30年度使用石川県立特別支援学校小学部検定済教科用図書の採択について (非公開)

竹中教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第29号 石川県産業教育審議会委員の委嘱 (任命) について (非公開)

竹中教育次長兼学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第30号 石川県社会教育委員の委嘱（任命）について（非公開）

坂井生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

議案第31号 石川県生涯学習審議会委員の委嘱について（非公開）

坂井生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案どおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。